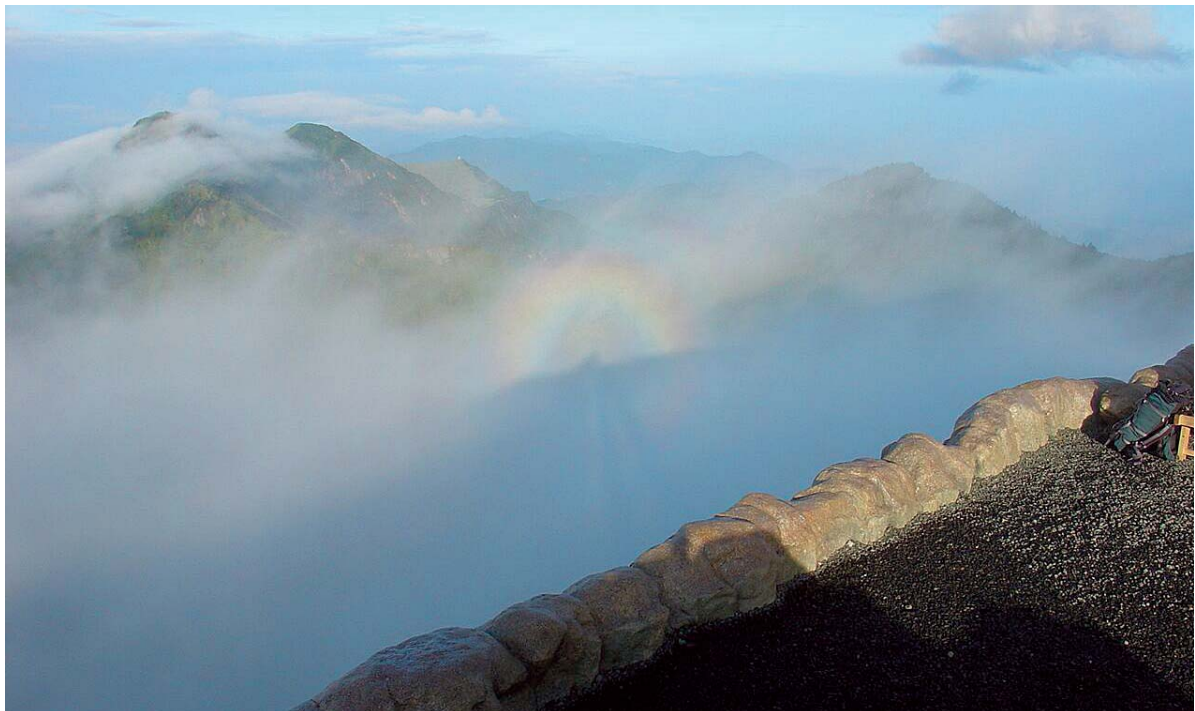


# 図書館報

第116号  
平成16年1月8日  
大分工業高等専門学校  
図書館  
大分市牧1666番地  
TEL 097 552 6084  
FAX 097 552 6786



石鎚山頂でのブロッケン

## 平成15年度 校内読書感想文コンクール入選者

	クラス	氏名	作品名	著者等
第1位	2E	阿部 ひろみ	僕の生きる道	橋部 敦子
第2位	3E	石崎 雄介	異邦人	アルベール・カミュ
第3位	2C	秋吉 大輔	老人と海	アーネスト・ヘミングウェイ
佳作	1E	梅原 優志	エミリーへの手紙	キャムロン・ライト
"	1E	島田 直	五体不満足 完全版	乙武 洋匡
"	1C	三浦 華織	天使になった男	ジョー・タイ
"	2M	小野 圭介	そして奇跡は起こった	ジェニファー・アームストロング
"	3S	朝見 陽加	命	柳 美里
"	3S	檜垣 明日香	キノの旅	時雨沢 恵一
"	3S	柳 迫里佳	24人のピリー・ミリガン	ダニエル・キイス

# 大分高専図書館の将来構想

図書館長 森 本 正 憲

## 中 期 計 画

大分高専の図書館では、従来、年度初めに年間の活動計画を立て、それにしたがって活動に取り組んできた。最近10年間でふりかえってみると、図書館の利用促進、環境の改善等について、着実な前進が見られた。(詳しくは、大分高専40周年記念誌56ページにまとめている。)

大分高専図書館の年間活動は、教官図書委員会、学生図書委員会にはじまり、校長・学生懇談会で終わっている。この間、2回の「図書館報」の発行、読書感想文コンクール、読書会、貸出上位者表彰が活動の柱となり、図書館関係者の協議会・大会等にも積極的に参加してきた。

今後もこれまでの活動実績をふまえて、着実に積み上げてきたものをまず継続していくように努めたい。

つぎに、向こう3年間の中期計画としては、緊急を要する事項や、3年間という期限内での実現の可能性を十分に考慮して、以下の諸事項に取り組んでいく計画である。

### 学生の自主的な活動の促進

年2回発行されている「図書館報」に準じて、学生図書委員会による「図書館だより」が発行され始めた。すべて学生自身が始めたことで、それ自体が貴重なことであり、学生の自由な創造的発想の紙面が特徴である。このような活動は、学生の立場からみると図書館や読書についての関心を持つ契機に大いになると思われる。図書館関係者としては、学生の自主性を尊重しつつ側面から支援していきたい。

### 読書感想文コンクールの促進

本校で行われたFDでも活発に意見交換がみられた「国語表現」への取り組みの一つとして、4・5年生の積極的な応募がなされるように努めていきたい。専門学科・一般文系・理系を問わず、これまでの1～3年生への課題に準じるような形を検討することも一つの方向であると考えている。

### 図書館環境の改善

法人化とJABEEに対応して、緊急を要する環境の改善点を列挙する。

バリアフリーとトイレの改善は、図書館の利用者

にとって基本的なことである。ついで、図書館への通路・案内板・駐車場等の整備も急がねばならない。いずれも予算要求を必要とすることであるが、午後5時以降の利用者の利便性、安全を保つことの重要性を考えると、この中期計画の中でも特に実現させたい事項である。

さらに、ビデオコーナー、ゼミ室の設置も必要である。従来、図書館は「活字」が主体となってきた。それが今後も重要であることは確かであろう。それに加えてこれからは、図書館が情報センターとして進化して行くためには、ビデオもCD-ROMも、これらを見るAV機器も備えていることが求められよう。そのことが図書館利用をさらに活性化していくに違いない。

またゼミ室の設置は、「コミュニケーション能力」(JABEEの学習・教育目標の設定と公開(f)[日本語による論理的な記述力、口頭発表能力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力])の育成をはかる上で是非とも必要なものである。授業(教室)以外の様々な機会をとらえて、この課題に取り組むためには、ゼミ室を設置し、多機能的に活用することも、一つの中期計画として実現できる可能性の大きい事項であると考えている。

## 将 来 構 想

現在の図書館は、二階の視聴覚教室・LL教室・和室・専攻科教室を含む図書館と総合情報センターとが別々に存在している。前述したように、「活字」主体の図書館から情報センターとしての図書館の多機能化を進めていくためには、図書館と総合情報センターとが有機的に統合されることが望まれる。

また、本校が地域とともに歩む高専という道をさらに推し進めていくことを考えるならば、現行の図書館設備を充実拡充し、図書館と総合情報センターとが一体となった新しい「総合メディアセンター」は、最適の場となるであろう。

このような環境を基盤にして、グローバルな視点、国際性、人間性を培う歩みを進めていきたい。

(本稿の内容は、2003年9月17日に開催された「将来構想発表会」で公開したものである。)

## おおいた文学散歩(1)

## 川端康成「波千鳥」を歩く

国語科教官 山田 繁 伸

「波千鳥」は、「千羽鶴」の続編の形をとっている。「千羽鶴」は、三谷菊治という一人の男をめぐる女たちの物語である。栗本ちか子、稲村ゆき子、大田夫人、その夫人の娘文子などが、不倫とも言える複雑な人間模様を形作る。文子は、亡き母と菊治、そして自分と菊治との問題に悩んで菊治のもとから去って新しい生を目指そうとする。そして、その行き先が今は亡き父の故郷の竹田市である。その旅の所々から菊治に宛てた手紙が、「波千鳥」の中の「旅の別離」の章に出ている。そこには、川端の見た大分の風景が美しく描かれている。

文子は別府通いのこがね丸で大分入りをする。

「別府の港にはいって、左手の高崎山から右へ、町を抱くようにつらなる山は、大きい円みの波に似ています。装飾風な日本の絵の波に、こんなのがあったと思います。観海寺温泉は奥まった山手で、湯殿から町や港も一目に見えます。こんなに広々と明るい温泉場もあるのかと驚きました。」

文子は、九重の山々に「近づいて」みたい思いから、大分を通して竹田へゆく汽車のコースは取らず、由布岳の麓を越え湯布院から豊後中村へ出て、飯田高原に入り九重山を越え、久住町から竹田へ入るコースを取った。父にとっては故郷であるが、文子にとっては、異郷の地、文子は、母や自分の贖罪の地を求めて旅をする。

「別府の裏の城島高原から見る由布岳もきれいでしたが、豊後中村駅から飯田高原にのぼる道で、九酔溪の紅葉が見られました。十三曲りをあがりきって振りかえると、逆光線が山裏や山ひだの色を沈めて、紅葉の美しさが深まっていました。山の肩からさす西日が紅葉の世界を荘厳にしていました。」

「雪国」や「伊豆の踊り子」の冒頭の感覚的な描写に通じる優れた描写である。

九州横断道路やまなみハイウェイの長者原ビジターセンター近くの道路沿いに立派な文学碑が立っている。碑文には、「雪月花時最思友」の漢文と「波千鳥」の一節が刻まれている。

漢文は、「雪月花の時、最も友を思う」と訓読し、美しい雪、月、花を見るにつけ、つまり四季折々の美にめぐりあった時、親しい友が思われ、この喜び

を共有したいと言う意味である。文子にとっては、友は別れてきた菊治であり、雪月花は、飯田高原などの大分の自然にほかならない。

「山々に取りかこまれた、あるいは四方の山々にささえられて浮かんだ、高原という円さがあります。ほんとうに美しい夢の国がここに浮かんだような高原でした。山は紅葉していますし、すすきの穂波は白いのですが、私は高原にやわらかい紫がただよっているように感じました。」

「この飯田高原は多くの人も言うように、ほんとうにロマンチックななつかしさです。やわらかくて、明るくて、そしてはるばるという思いをさせながら、静かに内へ抱きつつまれたという思いをさせます。南につらなる山々も温和で気品のある姿です。」

碑文の一節を眺めていると、文子の傷心が飯田高原の美しい自然によって少しずつ癒されていく感じを受ける。

川端康成は、昭和27年の秋と翌年28年の夏、画家高田力蔵の紹介で大分を訪れている。特に釜の口温泉には、康成が宿泊した小野屋旅館が当時のままの状態に残っている。そして、今も営業している。土地で採れる季節のものを主とした山家料理は逸品である。また、康成も入った共同浴場も旅館の隣にある。

この「波千鳥」は、新潮文庫『千羽鶴』の後半に収載されている。この拙文への引用もすべてそれによる。碑文は旧字体旧かなであるが、新字体新かなに改めて記述した。



飯田高原の川端康成文学碑

# 飯田高原(九重町)にある 川端康成の文学碑



案内板



文学碑の前景



雪<sup>せつ</sup>月<sup>げつ</sup>花<sup>か</sup>時<sup>とき</sup>  
最<sup>ちと</sup>モ<sup>も</sup>思<sup>し</sup>フ<sup>ふ</sup>友<sup>とも</sup>ヲ<sup>ら</sup>  
康成



文学碑の裏面

# 第89回 全国図書館大会 (静岡県静岡市)



歓迎のモニュメント  
(静岡市民文化会館)



斎藤孝氏と鈴木重子さんの対談  
(全体会)

鈴木重子氏  
静岡市民文化会館  
学芸部長



危機管理について発表する  
明石高専の竜子雅俊教授



電子ジャーナルについて発表する  
長岡技科大の島影昭児係長

## 私の推薦する図書

## 「社会調査」のウソ

(リサーチリテラシーのすすめ)

谷岡一郎 著(文春新書)

土木工学科 中野 友裕

「ごみの定義を述べよ」と質問したらどのような回答が返ってくるだろうか?おそらく「不要なものの『役に立たないもの』『じゃまなもの』場合によっては「人間生活を不愉快なものにするもの」などという答えもあるかもしれない。

本書は、日本だけでなく世界中で行われている多くの社会調査が「ごみ」であると指摘する。とりわけ、不特定多数の中から標本抽出を行った調査は、ほとんどの場合に何らかの意図をもって行うため、情報操作が行われやすいと主張する。

考えてみれば、人間が何か行動を起こそうとすれば、そこに目的があるのは当然である。その目的が世論形成のためであれば、何とかして自分の主張を裏付けるような調査結果がほしくなるであろう。そのため、自分の得たい調査結果に導くための調査技術が用いられるという。確かに本書の引用を見てみ

ると、露骨な誘導尋問形式のアンケートが多いことに気づく。しかし、新聞紙面やテレビの報道画面上では、結果の誇大表示だけが行われる(たとえば「中学生の6割がナイフ所持 - 問われる教育現場」など)。偏った結果が出るように操作した調査を行えば、それに対応した結果が出ることは当たり前であるにもかかわらず、その調査過程・条件を隠し、いいとこ取りだけをする調査報告が多いのである。

「ごみが多くなりすぎると、きちんとしたものでごみと見られる」という本書の主張は、傾聴に値する。このごみとはもちろん多くの社会調査のことである。しかし我々の周りには、「大学教授の調査によると・・・」とか「××が行った世論調査によると・・・」という接頭辞のついた調査結果が非常に多い。ここで危険なのは、その接頭辞ゆえにごみである判別ができず、調査結果を信じ込み、それに基づき自分の意見までも形成させられることである。

情報が散乱している中では、いかにして本物の情報を見分け、ごみと区別するかが重要になる。メディアや社会団体の作ったウソを見抜き、惑わされないようにするためにも、ぜひ御一読願いたい。

## ベトナムの正月「テト」の紹介

電気電子工学科3年 Nguyen Anh Tuan

ベトナムは中国文化圏にあり、歴史上儒教を中心とする中国文化および大乘教文化を受けたため、倫理観や物の考え方、箸を使う食生活等、さまざまな面で日本とも共通点が多いです。その中で、正月の迎え方は一番強い表現だと思う。

ベトナムのテトは陰暦なので毎年正月の時期が変わる。例えば、「2002年」のテトは2月12日が元日だったが、今年「2003年」は2月1日が元日になる。

日本ではお正月といえば初もうでをした後は、家でのんびりテレビをみたり、デパートへ初売りをひやかしにいたり、最近では海外旅行にいってしまう人も多い。普段忙しい人もこの日ばかりはゆっくりできる期間である。

ところが、ベトナムの正月はとても忙しい。なぜなら、購買必需品は新年を迎えるための新しい服や

枕や布団といった寝具、家を飾る花が必要であり、その花は、北の人々はピンクの桃を飾り、南の人々は黄色の花をつけた梅を飾ります。さらに、一番大切なものが「バンチュン」というお菓子である。「バンチュン」は餅と豚肉と豆と一緒に入れ物を包んで、八時間で煮る料理のことだ。

元日から休む間もなく、お客がひっきりなしにやってくる。家族はもてなすのに大わらわだ。こちらでは親戚、友人問わず家を訪ねることが一種の礼儀でもあるので、とくに用事がなくとも、昨日きたばかりの人もやってくる。そして迎える側はいつも大歓迎をし、夜中まで玄関の扉を開けておく。とても寒いので、家の中でも家族はコートを着て帽子をかぶっている。

そして、正月は楽しいこともあるよ。それはお年

玉！ベトナムでは、お年玉をあげるときに「今年は勉強をがんばるように」とか「健康でありますよう」とか相手にアドバイスを与えることができる。しかし、とくに相手に対して要望がない私は、若者には「かわいくいてください(もしくはハンサムでね)」親以上の年令の人には「健康でいてください」とア

ドバイスをする。

ベトナムでは、テトとともに祭りもいっぱいあるので、人々は祭りに参加したり、お寺にいたり、祈ったりする。

皆様、機会があったら、ベトナムにいらっやって、ベトナムの正月をお迎えください。

## 学生図書委員会の仕事

制御情報工学科 5年 若狭 晃司

私は学生図書委員長の若狭晃司です。私が学生図書委員長になった理由は、何かとお世話になった高専で、何か一つでも責任のある仕事をしたいと思ったからです。図書館には低学年の頃からよく通っていたので、そのような場所で責任ある仕事ができ、私はとても嬉しいです。

さて、学生図書委員会の主な仕事は、まず「学生図書新聞の執筆」です。学生図書委員会の委員長と副委員長が集まり、図書館からのお知らせを学生の視点から伝えるものです。図書館の様々なイベントのお知らせや返却期限の厳守を呼びかけています。季刊ぐらいのペースで発刊しています。テキストからカットまで学生図書委員会の手作りですので、教室で見かけたら一読をお願いします。他の仕事は、「読書感想文コンクールの審査」です。学生が夏休みに書いた読書感想文の中から厳選された作品を教官方とともに読み、審査していきます。今年も優秀な感想文が多く、審査にはかなりてこずりました。

そして、私が一番重要と考える学生図書委員会の仕事は「読書会」です。学生図書委員会が選んだ本

を読み、その内容を語り合う行事です。本の題名は「終戦のローレライ」世界の中心で、愛をさげぶ」です。他人と語り合いたくなるような、奥の深い本です。今年度は「1月31日(土) 13:00～」行います。皆さんぜひ参加してください。

以上が主な学生図書委員会の仕事です。学生、教員の皆さんが快適に読書できるように、我々も様々な努力をしています。

図書館のことなら学生図書委員会や司書さん方に、気軽に聞いてください。例えば新規に本を入れて欲しいなどです。申請をすれば、本の内容にもよりますが、入荷する可能性もありますので、気軽に申請をしてください。

私もよく図書館を利用するのですが、図書館には値段が高くて手が届きにくい本から、話題のアノ本、雑誌まで様々な本を取り揃えているので、気軽に借りにきてください。きっと新しい世界との出会いが待っているでしょう。

皆さんも本をたくさん読んでください。

### 平成15年度後期学生図書委員会名簿

学科 \ 学年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
機 械 工 学 科	日高 大介 荻本 亜哉	佐藤 博之 前田 浩明	川野 紘平 阿南 雅裕	山神 悠太 八坂昭太郎	中村 武志 橋本 晃
電 気 電 子 工 学 科	有森 慎一 藤下 靖之	松下 容子 岩村 美貴	佐郷 幸法 池田 将光	小手川愛恵 佐藤 知世	磯村 直也 溝辺 貴由
制 御 情 報 工 学 科	渡辺 成浩 河野 祥二	渡辺 優樹 向 直彬	佐保 賢志 伊澤 良公	若林 諒 梅木 千尋	若狭 晃司 前田 祐里
土 木 工 学 科	大石健太郎 久光 沙知	三瀬 恵子 坂梨 瞳	大鶴 政輝 金山奈津美	井上 勇志 藤本 翔	吉川 正道 雪 貴恵

委員長 副委員長



石 鎚 山 頂 か ら の 日 の 出

## 〈 も く じ 〉

題 字 「図書館報」	.....	(校 長 沖 憲典 筆)	..... 1
扉写真 「石鎚山頂でのプロッケン」	.....	(山岳部・顧問 工藤 康紀)	..... 1
「平成15年度 校内読書感想文コンクール入選者」	.....		..... 1
「大分高専図書館の将来構想」	.....	図 書 館 長 森本 正憲	..... 2
「おおいた文学散歩(1)」	.....	国 語 科 教 官 山田 繁伸	..... 3
組写真「飯田高原(九重町)にある川端康成の文学碑」	.....		..... 4
「第89回全国図書館大会(静岡県静岡市)」	.....		..... 5
私の推薦する図書「『社会調査』のウソ」	.....	土 木 工 学 科 中野 友裕	..... 6
「ベトナムの正月『テト』の紹介」	.....	電 気 電 子 工 学 科 3 年 Nguyen Anh Tuan	..... 6
「学生図書委員会の仕事」	.....	学 生 図 書 委 員 長 若狭 晃司	..... 7
「平成15年度後期学生図書委員名簿」	.....		..... 7
裏扉写真 「石鎚山頂からの日の出」	.....	(山岳部・顧問 工藤 康紀)	..... 8
編集後記	.....	図 書 館 長 補 佐 島田 晋	..... 8

## 編 集 後 記

2004年の新年を迎えました。4月からは、全国の国立高専が一つの独立法人として歩き始める予定です。不透明な部分が多く、不安な気持ちもありますが、とにかく新しい組織として充実した内容を引き継ぎたいと思います。

国語科の山田先生より、「おおいた文学散歩(1)」の原稿とお写真を頂きました。

「私の推薦する図書」には中野教官から、「ベトナムの正月の紹介」を留学生のアン君から、また「学生図書委員会の仕事」と題して、学生図書委員長の若狭晃司君に寄稿していただきました。そして、「図書館の将来構想」について森本館長の文章を掲載しました。

今回の写真は、四国・愛媛県にある「石鎚山頂」での「プロッケン」と「日の出」を山岳部・顧問の工藤先生から提供してもらいました。  
(図書館長補佐 = 島田 晋)